

The 12th IAGG Master Class on Ageing in Asia に参加して

田中 佑治

(日老医誌 2024 ; 61 : 502)

このたび、2024年5月22日～24日に東京で開催された The 12th IAGG Master Class on Ageing in Asia に応募し、参加させて頂きました。このような機会を頂いたことに大変感謝しております。

私は医師ではなく、再生医療や医工学などの分野横断的な橋渡し研究を行っていましたが、健康長寿のバイオバンク研究にチャレンジしたことをきっかけに老年医学の分野に足を踏み入れました。コロナ禍の中で研究自体は困難を極めました。高齢者のご自宅を訪問し、丁寧にお話を聞き、多様な医学データを分析するなどの経験を通して、高齢化社会の課題にどのように取り組むべきかを考えるようになりました。社会還元につながる取り組みをしたいという思いから、老年医学をより深く理解し、専門家と意見交換する必要性を感じていました。

Master Class は、参加者全員の自己紹介から始まり、3日間にわたり、アジアを代表する老年医学のエキスパートによる講義や、チーム別の症例検討や研究討論が行われました。特にチーム別討論では、薬剤管理システムや COVID-19 ワクチン接種率の国ごとの差異など、国際的なメンバーならではの興味深い討論が展開されました。臨床に関するトピックがメインであったため、内容を理解するのが容易ではありませんでしたが、臨床医が患者一人一人に深い考察と配慮をして診療していることがよく分かりました。

チーム討論で自身の研究を紹介する機会を頂き、



チューターの先生方やアジアの若手医師から貴重な質問や助言をいただきました。また、以前日本老年医学会で印象深い発表をされていた国内の若手医師とお話をする機会も得られ、臨床現場の様々な課題を知ることができました。さらに、チューターの秋下雅弘先生や荒井秀典先生など、第一人者の先生方に直接意見を聞いて頂く機会が得られ、俯瞰的なご助言を得ることができました。

今回新たに出会った先生方と Master Class 後も話し合う機会を頂いており、大変実りの多い、充実した時間であったと実感しています。私のような異色の参加者を認めてくださったことに心より感謝申し上げます。そして、老年医学や出会った先生方に恩返しできるよう、これからも努力していこうと思っております。